

令和2年度
事業報告書

公益財団法人防府市文化振興財団

令和２年度 公益財団法人防府市文化振興財団事業報告書

I 事業総括

防府市文化振興財団は、真に豊かさの実感できる地域社会の形成と進展に寄与することを目的として、「豊かな心の育みと文化の薫りにあふれるまちづくり」を推進する防府市における文化活動の一層の活性化を図り、市民のニーズに応える多様な事業を展開しています。

令和２年度は、第３期指定管理完結の年度にあたることから、これまでの実績を検証しながら安心安全を基本に、より利用しやすい施設運営に努めるとともに、それぞれの施設を拠点とした魅力あふれる多彩な事業を企画運営することにより、多くの来場者をお迎えする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により十分な活動ができませんでした。

このような中で、改修工事が終わった防府市公会堂をはじめ緊急事態宣言解除後から少しずつ利用が増えて、１月には「第２０回防府音楽祭ファイナルコンサート」を開催することができました。

II 事業概要

公益財団法人として定款の目的にかなった事業を展開するとともに、「防府まちづくりプラン２０２０」に沿った文化・芸術活動の推進、並びに図書館運営事業による生涯学習を推進すると同時に、コロナ禍において所管する６施設のあり方を検討し、それぞれの特徴を活かしながら連携して適正な管理運営に取り組みました。

また、コロナ禍により制約を受ける中、収益事業については、感染防止対策を取りながら公益目的事業の一層の充実を図るための財源確保や、利用者のサービス向上につながるよう、収入の確保に努めました。

1 文化の創造・発信及び文化活動の支援事業

防府市公会堂・防府市地域交流センター（アスピラート）

(1) 楽鑑賞事業（資料１頁～２頁参照）

本年度は、自主事業１事業１公演、受託事業２事業６公演、合計３事業７公演のクラシック及びポップス、伝統芸能の事業を展開し、合計で約１，８００人の方にご参加いただきました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全国的な文化事業の中止や延期はアスピラートも同様で、いくつかの事業は中止せざるを得ない状況でした。しかし、秋以降に国や県、市の対応として観客数等が段階的に緩和された内容を踏まえながら、感染予防対策を徹底し事業を展開していきました。

ア クラシック

[主催事業]

a 防府音楽祭

第20回目を迎えた防府音楽祭は、町の活性化を図るとともに、クラシック音楽をより多くの市民に親しんでいただけるよう1月8日（金）から11日（月・祝）までの4日間開催しました。

初日の「街角コンサート」は、「防府市議会棟議場」、「暁の星幼稚園教会」、「毛利邸書院（大広間）」の市内3カ所での演奏を、YouTubeで動画配信しました。動画は約2,600回の視聴があり、多くの方に楽しんでいる様子が伺えます。

2日目に開催した「プロムナードコンサート」は、282通（583人）の応募がありファンファーレに続き、ヴァイオリンをはじめ8種類の楽器のソロ演奏を楽しんでいただきました。なかなかソロの演奏を聴く機会のない楽器もあり、各楽器の魅力を堪能していただきました。

また、防府市内外から集まった小学生から高校生までが受講した「管・打楽器特別公開クリニック」では、フルート、オーボエ、打楽器など9パートのクリニックを昨年度より参加人数を各パート5名に減らして行い、基礎を中心にプロから直接指導を受けました。各講師は、受講生が抱えている演奏上の悩みや相談などに対して丁寧に答え、今後の演奏に活かしていける指導をしました。

3日目の「わくわく夢の響演コンサート」は、第1部は広田智之のソロによるオーボエ協奏曲を、第2部は金管五重奏をお届けしました。どちらも小編成の曲ながら、アンサンブルの美しさで観客を楽しませました。

第3部は、組曲「動物の謝肉祭」の14曲をバックに関連した動物の映像を映しながら演奏していただきました。小品ながら作曲者であるサン＝サーンスのユーモアがあふれている曲を楽しんでいただきました。

最終日の「ファイナルコンサート」では、第1部で「主よ人の望みよ喜びよ」と「アヴェ・ヴェルム・コルプス」をアスピラート合唱教室の皆さんが、防府音楽祭弦楽合奏団とともに演奏しました。続いて、防府市出身の田村昭博（ヴァイオリン）と吉田篤（ビオラ）のソロによる協奏交響曲を披露しました。二人の息の合った演奏と小編成でありながら充実した管弦楽の響きを堪能していただきました。

第2部では、多くの方になじみのあるベートーヴェンの交響曲第5番「運命」をお届けしました。指揮者のいない演奏でしたが、この曲のもつすばらしさを堪能するとともに、オーケストラによる迫力の演奏で最終日を締めくくりました。

市民参加型として定着している防府音楽祭は、(独)日本芸術文化振興基金から高い評価を受け、引き続き今回も助成をいただいております。

b 澤和樹&蓼沼恵美子、アラン・ムニエ (中止)

新型コロナウイルスの関係でアラン・ムニエ氏の来日ができず中止となりました。

イ ポップス等

[共催事業]

a ブリヂストン吹奏楽団久留米コンサート (中止)

新型コロナウイルス感染拡大収束の見通しがたたないことから、開催を見送ることになりました。

b ぐっさんのハッピーオンステージ全国50ヵ所ツアー

当初は令和2年3月の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、令和2年8月に延期しましたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないために再延期し、令和3年2月に実施しました。ぐっさん一人によるトークやものまね、歌の楽しいステージが展開され、会場は大いに盛り上がりしました。

ウ 伝統文化

[共催事業]

a AUNJクラシック・オーケストラ2021

7人の邦楽家が、古典からポップスまでの幅広いジャンルの音楽と高い技術に裏付けされた楽しいパフォーマンスで観客を魅了しました。また、共催である防府ロータリークラブが市内の小中学生を招待されました。邦楽や伝統楽器の素晴らしさを改めて感じてもらえる演奏会になりました。

(2) 音楽育成事業 (資料2頁参照)

年間を通して開催することにより、幅広い層の市民に歌うこと、楽器を演奏することの醍醐味を堪能していただくことを目的としていますが、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため十分な活動ができない時期もありました。

a こども合唱教室 (中止)

学校でも合唱を控えるようにしていることや、新型コロナウイルス感染拡大収束の見通しがたたないことから、今年度の開催を見送ることにしました。

b 弦楽合奏教室

新型コロナウイルス感染拡大の影響により7月に活動を再開しましたが、8月は感染者が増えたため休止しました。9月からまた再開し感染リスクを減らすため各自1時間のみの参加としました。

c 吹奏楽教室（中止）

マスクが付けられなく、飛沫が心配であり、アスピラートの人数制限をクリア出来ない時期も長かったことから、活動再開の見通しがたたず今年度の開催は見送ることにしました。

d 合唱教室

新型コロナウイルス感染拡大の影響により6月から活動を再開しました。防府音楽祭に出演し、「主よ人の望みよ喜びよ」と「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を演奏しました。その後は「アイダ」と「ダッタン人の踊り」2曲に取り組みました。

e チェンバロ講座 触ってみよう！

こどもコースと大人コースを設定し、防府市内外の受講生がチェンバロの仕組みや歴史、演奏法を学びました。最終日の音楽ホールでの発表会では、一人ずつ思う存分演奏をしてチェンバロの響きを楽しみました。

(3) 音楽普及事業（資料3頁参照）

各種音楽セミナーを開催し、音楽に対する興味・関心を広げてもらうように普及事業を展開しました。

[主催事業]

a 音楽セミナー／田中雅弘の音楽旅日記XⅧ

防府市出身のチェリスト田中雅弘氏を講師に迎えての音楽セミナーも、18回目を迎えました。今回は「田舎もん、故郷に帰る～60年の歴史をしょって」と題してお話しや演奏を披露していただきました。新型コロナウイルス感染症対策として、定員40名としましたが予約がすぐに一杯になったため、追加公演の2回を開催しました。多くのコンサートが中止になり、来場者は演奏を生で聴けることを喜ばれました。

b 音楽セミナー／和楽器を語る～篠笛と箏の調和～

今回は、篠笛と箏を取り上げ、新型コロナウイルス対策として音楽ホールの1階席のみで50%の定員で開催することによって、ホールに広がる楽器の響きも十分味わっていただきました。二人の演奏や解説だけでなく、楽器の体験コーナーもあり、日本の伝統楽器のすばらしさを感じることができました。

[共催事業]

a 室内楽セミナー

当初は7月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、中止としました。しかし、受講生の開催してほしいという熱い要望があり、秋に国や県、市の対策として人数制限等が緩和されたのを受けて、山口県内と感染者の少ない

近隣の県の人を中心に11月に開催しました。室内楽の演奏を通して、作品への理解を深めるとともに、アンサンブルの技能向上を目指しました。

(4) 美術鑑賞事業（資料3頁参照）

本年度は、企画展を1回開催し、1,602人の方にご参加いただきました。多くの企画が新型コロナウイルス感染拡大に伴い、中止せざるを得ない状況でした。

[主催事業]

a 美術鑑賞バス①、②（中止）

毎年夏と秋に地元の旅行会社と共同で企画実施していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み中止としました。

b ふわふわシナモロール展（延期）

サンリオ総選挙における1位人気キャラクター「シナモロール」の体験型展覧会を、九州山口初開催としてKRY山口放送と共同主催で企画実施予定でしたが、会期直前に緊急事態宣言が発令され、臨時休館となり開催を見送りました。

なお、令和3年4月に延期開催をします。

c りおたのスポーツ名場面集2020

防府市出身在住のスポーツイラストレーターりおた氏の作品約180点を展示しました。世界で闘うトップアスリートの名場面や、オリンピックでの活躍を期待する選手のイラスト、アスリートのシューズなども展示しました。

新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」に即した展覧会を目指し、入場予約制を導入したため、目立った混雑もなくスムーズな運営ができました。

新型コロナ禍で様々な制約のある生活を強いられる中、多くの市民や子どもたちから「展覧会で元気と希望をもらった」との声が寄せられました。

d アスピラートでクリスマス／幸せますカメラ女子部写真展

クリスマスを盛り上げるイベントの一環として、中心市街地の近隣商業施設や山口県立防府商工高校と連携して開催しました。また、チェリスト田中雅弘による「灯りの下でコンサート」も行いました。音楽祭のプレイベントとしても定着しているとともに、久々のコンサートで多くの来場者があり会場は満席となる賑わいでした。

また、同時期に実施した「カメラ女子部」の写真展も好評を博しました。

[共催事業]

a ふるさとの匠たち第13回 「腕前探訪」（中止）

毎年9月にyab山口朝日放送・朝日新聞社と共同で開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み中止しました。

(5) 美術育成事業（資料4頁参照）

市民から要望の多い幼児から楽しめる造形ワークショップ等、より多くの子どもたちを対象とした美術育成事業を開催しました。

[主催事業]

a ゆめあーとひろば

新型コロナウイルス感染拡大のため1学期の活動を見送り2学期から参加人数や活動時間を減らして再開としましたが、9月開催予定の初回は、台風10号接近のため中止としました。以後開催した4回の申し込みは満員の状態でした。

[共催事業]

a 瀬戸内デザイングランプリ 2020 入賞作品展

5回目となる今年は「ロボット」をテーマにした作品を募集し、ユニークで楽しい子どもたちのアイデアによるポスター1, 274作品の応募がありました。

(6) 発表・支援事業（資料5頁参照）

[主催事業]

a フェスタアスピラート 2021（音楽事業）

今年度初めて、無観客で動画配信として開催しました。参加した21団体が、日頃の活動の成果を発表し、後日YouTubeで視聴できるようにしました。視聴数が約1, 500回あり多くの方に視聴していただいている様子が伺えます。

b フェスタアスピラート 2021（美術部門）

「がんばろう！」をテーマにした写真作品の募集をしたところ、昨年度を上回る135点の応募がありました。会期中の来場者投票と写真家等による審査により各賞を決定しました。選ばれた作品による優秀作品展も好評でした。なお、優秀作品はイベントアイ4-5月号にも掲載しました。

[共催事業]

a 防府少年少女合唱団第21回定期演奏会（中止）

新型コロナウイルス感染拡大収束の見通しがたたないことから、開催を見送りました。

b 能章まつり

防府市出身の昭和の作曲家大村能章を顕彰する会が毎年開催している歌謡祭は、第29回目を迎えました。4部からなる工夫された構成で、幅広い選曲がなされており、各年代のお客様が楽しめました。入場者数は昨年度同等でしたが、今年はずっと座って聴いている人が多く観客数が増えたように感じました。

c 防府吹奏楽団第19回定期演奏会（中止）

新型コロナウイルス感染拡大収束の見通しがたたないことから、開催を見送り

ました。

d 防府弦楽合奏団定期演奏会（中止）

新型コロナウイルス感染拡大収束の見通しがたたないことから、開催を見送りました。

(7) その他の文化鑑賞事業（資料5頁参照）

[主催事業]

a 会員招待事業

「夏井いつき句会ライブ」を防府市公会堂で開催しました。俳句が簡単にできる法則を話された後、来場者が作品を作り、優秀な作品を選んで掲示し、作品の情景や作者に作った思いを聞きながら解説をしていただきました。夏井先生の軽快なトークで楽しい講演会となりました。

b プレジャーBのコメディ・クラウン・サーカス

新型コロナウイルス感染拡大防止のため今年度の開催を見送り、令和3年5月に開催します。

(8) 文化施設の管理運営

施設の設置目的に沿ってそれぞれの特徴を活かしながら、市民が利用しやすい施設となるよう、各施設が連携をとりながら利用促進を図りました。

ア 防府市公会堂

市民の福祉を増進し、生活文化の向上に資するとともに広く集会の場として使用に供するために設置された公会堂は、その目的にかなう管理運営に努めました。

a 施設整備

平成31年1月から耐震改修並びに老朽化した大ホール等を全面的にリニューアルし、令和2年3月に改修工事が終わりました。

大ホールは、残響時間を長くすることで音の響きを良くし、客席は広くゆったり座れるようになりました。

また、併せて1階、2階の貸室を増やし3階の貸室も空調を完備し明るくきれいになりました。その他、明るく開放的なホワイエや清潔なトイレなど、ご利用される方々に快適な空間を提供することができるようになりました。

なお、緊急時の対策については、従来のマニュアルを更新して災害時のお客様の誘導方法や、消防機器の取り扱いについて訓練を行い、危機管理対策の充実に取り組みました。

b 利用状況

新型コロナウイルス感染症の影響により、6月に予定していましたリニューアルオープンが10月となり、また、感染防止対策を取りながらの運営のため、当

初想定したとおりの利用とはなりませんでした。特に、感染防止対策のため、大ホールの観客を制限するなど大きく減少しました。

今後は生まれ変わった「防府市公会堂」をPRし、感染防止対策を取りながら施設全体の幅広い活用につなげるよう一層努力してまいります。

本年度の利用率は23%、利用人数は11,896人でした。

イ 防府市地域交流センター

誰もが利用しやすい施設となるように、以下のとおり管理運営を行いました。

a 施設整備

施設の設備・機器管理の面では、開館時のシステムのままで音響業務に支障が出ていた音楽ホールの音響調整卓を刷新しました。しかし、空調設備等、経年劣化に伴う不具合が多発するとともに、すでに部品の供給が終了している機器も多くあり、計画的な更新が必要になっています。

また、施設の維持管理面でも、開館から22年が経過したこともあり、様々な場所の劣化が目につくようになりました。その都度、防府市とも協議しつつ修繕を行ってきましたが、今後も厳しい状況が続くものと想定されます。

毎年恒例となっている施設の裏側を公開するバックステージツアーは12月に開催しました。昨年度から報道資料を作成し、周知に努めたところ17名の参加がありました。子どもから大人まで幅広い年齢層の方々が参加され、アスピラートのことを知っていただくよい機会になったと考えます。

昨年度、種田山頭火の部屋が空きスペースとなりましたが、今年度から防府市文化協会と連携し、小規模な作品展等で活用されています。部屋が種田山頭火専門のレイアウトになっており、作品等の展示に苦勞することが多いのですが、各団体とも工夫されていました。

なお、令和3年度には、駅前の賑わいの創出と市民スペースの利用活性化を目指して、旧種田山頭火の部屋と大村能章の部屋を改築して一つの部屋にして、防府市文化協会を主体とした展示・作品展等を開催する予定です。また、展示ホールの壁の張替えが予定されています。

工事期間中の貸館や工事後の利用方法等については、関係機関と連携しながら協議していきます。

b 利用状況

利用率については、前年度の75%を大きく下回り43%となりました。利用人数についても、前年度を107,087人下回る20,905人となりました。

各施設の利用率の内訳は、音楽ホールが52%（前年度71%）、リハーサル室が34%（同81%）、展示ホールが40%（同70%）、練習室が54%（同

90%)となっています。

これは新型コロナウイルスの影響で貸館の利用制限をかけることになったことや、イベントのキャンセルが続出したこと等が大きな要因です。

山頭火ふるさと館

山頭火ふるさと館には、

- 1 山頭火を顕彰・継承する文学館としての役割
- 2 学校や公民館等と連携してあらゆる世代の人たちが学ぶ教育施設の役割
- 3 「うめてらす」等と連携して新たな人の流れをつくり、防府市を活性化する観光施設としての役割

以上3つの役割が求められています。その3つの役割を踏まえて、運営事業・研究普及事業・収益事業・管理業務を行いました。

(1) 運営事業

山頭火ふるさと館の案内や催し等について、市民ボランティアとの協働を推進し、来館者や市民に親しまれる館の運営をおこないました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大を受け、感染防止対策も徹底して実施しました。

① 新型コロナウイルス感染拡大防止対策

4月8日(水)～5月24日(日) 臨時休館

5月25日(月)から再開

ア 来館者の制限

緊急事態宣言の発令されている地域からの来館の自粛を呼びかけました(6月17日まで)。また、体調不良の方の来館自粛を呼びかけました。

イ 入館者への対策

入館時には体温を測定し、氏名と連絡先の記入をお願いしました。

ウ 館内の感染拡大予防対策

- ・ 開館時間の1時間短縮(9月30日まで)
- ・ ミュージアムショップ休止(6月12日まで)
- ・ 館内全体各所の定期的な消毒、アルコール消毒液の設置
- ・ 館内一方通行の動線の作成
- ・ タッチパネル、句集レプリカ、書籍閲覧サービスの停止

エ その他利用制限

ふるさと展示交流室の利用を中止しました(9月30日まで)。また、利用人数を12人までに制限しました。

団体観覧についても、一度の入館人数を12人までに制限しました。

② 案内業務

山頭火ふるさと館には、県内外から多くのお客様が来館されますので、受付カウンターには常時職員を配置し、来館者に対する施設の総合案内や主催事業への参加誘導等を行って、一人でも多くの方に山頭火の世界に触れていただくよう努めました。

③ ふるさと展示交流室の運營業務

交流室については、専用使用のない時は多くのお客様に気軽に利用していただけるスペースとして無料開放し、山頭火のふるさと防府の様々な情報発信ができるよう努め、施設の有効活用を図りました。

④ 広報活動

全国におられる山頭火ファンに向けて、山頭火や自由律俳句に親しんでいただき、山頭火ふるさと館へ足を運んでいただけるよう、各種メディアを活用して山頭火に関連する情報発信を積極的行いました。

ア ホームページ・Facebook での情報発信 随時

イ 山頭火ふるさと館報の発行 年2回

ウ 山頭火ふるさとラヂオ（FM わっしょい） 月1回放送

エ その他各種メディアの活用

（2）研究・普及事業

① 収集・保存

山頭火ふるさと館の収蔵資料は、大切に整理・保存しています。

また、館の収蔵資料の充実のため、山頭火やその関連の資料の調査に努めました。

② 調査・研究

館収蔵の資料については、学術的な調査・研究を行い、その成果を展示や館報など様々な形で発信しました。また、次年度の企画展に関する資料の調査もおこないました。

やまぐち文学回廊構想推進協議会の会員として、協議会の調査研究事業に参加し、今後の企画展のための調査研究を行いました。

③ 展示活動

ア 特別展示室

山頭火や山頭火を取り巻く人々、自由律俳句の魅力等を観覧者に伝えるための企画展を開催し、所蔵する資料の一部を紹介しました。資料の劣化防止や観覧者への配慮等の観点から、同じ資料が長期間展示されることのないよう、計画的に入れ替えを行いました。

・ 令和2年3月27日～9月13日（日）

※ 新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休館のため、2月28日（金）～3月26日（木）まで臨時休館し、会期を延長

企画展「響き合う言葉 ～山頭火 句の広がり～」

短いことばで表現する山頭火の俳句のなかで、掛詞、比喻、連想など、ひとつの言葉で多様なイメージを喚起する表現がみられる句を紹介し、短い中にも広がりのある山頭火句の新たな魅力を紹介しました。また、見方を上下で反転させることによって別の文字となるアンビグラムを、いとうさとし氏に制作委託して展示し、山頭火の句の多様なイメージを視覚的にも感じ取っていただけるような展示としました。

・ 中止

企画展「山頭火に出会った人々」

・ 令和2年9月18日（金）～令和3年1月11日（日）

山頭火没後80年記念企画展「旅を記す ～山頭火からの便り～」

没後80年となる種田山頭火の、旅先で記した葉書やそこで詠んだ句の短冊、掛け軸などを展示し、旅中の思いや旅先での交友関係を紹介しながら、葉書を通して山頭火の旅を紐解く展示としました。

前期は、宮崎県立図書館から山頭火直筆の資料を借用し、後期は、寄託資料である田代俊宛て書簡を展示しました。

また、前後期通じて、句友である池原魚眠洞宛ての葉書を七通展示しました。七通とも春陽堂書店『山頭火全集』未収録の書簡であり、貴重な資料の公開となりました。

・ 令和3年1月15日（土）～3月15日（月）

企画展「俳句の中の生き物」

山頭火をはじめ同時代の俳人が俳句に詠んだ生き物に焦点をあて、句の中でどのように生きているかを探りました。また、そうした身近な生き物を通して表現される心情を読み解き、山頭火や自由律俳句の新たな魅力の発見につなげる内容としました。

山頭火の他に新傾向俳句を提唱した河東碧梧桐、俳句雑誌『層雲』主宰の荻原井泉水、同人の江良碧松、三宅酒壺洞の計五人が動植物や虫等を詠んだ句を中心に短冊及び掛け軸を展示しました。句の内容や筆致には、五人の詠み手のそれぞれの個性が表れており、違いを楽しんでいただける展示となるようにしました。

イ 常設展示

導入展示室と常設展示室では、山頭火の生涯や人間的な背景を紹介するパネルと資料を展示しています。また、今年度は、9月の企画展展示替え期間に合わせて「現代人の書いた山頭火」を新たに展示しました。

ウ 無料ゾーン

ふるさと展示交流室では、毎月「今月の一句」を選んで掲示し、来館者に紹介しました。館所蔵の書籍で保存状態が特に良好なものについては、ふるさと展示交流室に設置して来館者が自由に読めるようにしました。また、館蔵の図書一覧リストを設置し、当日の利用申請も受け付けました。

市民ギャラリーでは、市民の方々による文化・文芸活動の発表の場としてだけでなく、展示室への導入として山頭火を紹介する展示もおこないました。

・ 7月～8月

「植田莫展」

版画家植田莫による山頭火の句をモチーフにした版画作品のうち、春と夏がテーマのものを展示しました。

・ 11月～2月

「植田莫展」その2

版画家植田莫による山頭火の句をモチーフにした版画作品のうち、秋と冬がテーマのものを展示しました。

④ 教育普及活動

「山頭火をうたい 山頭火にしたしみ 山頭火をつたえる」ことを目的に、山頭火や自由律俳句等をテーマとしたセミナー、ワークショップ等を企画し、ふるさと展示交流室を利用して開催しました。

ア 山頭火没後80年記念シンポジウム「旅する山頭火 終焉の地」

10月25日（日）14：00～15：30

最期までふるさとに戻ることなく漂泊の旅に生きた山頭火の、晩年の旅と、終焉の地として選んだ四国松山での様子について、先人尾崎放哉への思いにも触れながらパネルディスカッションを行いました。また、当日は自由律俳句の投句を受け付け、後日山頭火ふるさと館内に掲示しました。三人のパネラーには、松山での様子、放哉への思い、ふるさとへの思い等を語っていただきました。参加者は市内・県内の方が多く、地元での山頭火への関心が高まってきていることが実感できました。

イ 山頭火を学ぶ会

前期：中止

後期：3回シリーズの講座をA日程、B日程の二度開催

ウ 自由律句を学ぶ会

前期：中止

後期：月1回、全6回開催

エ 自由律句で遊ぼう（小・中学生対象）通年全6回

オ 自由律俳句大会 5月～11月募集、2月結果公表（表彰式中止）

カ フォトコンテスト 3月～7月募集、8月結果公表（表彰式中止）

キ 書道コンクール（市内小・中・高校生対象）

7月～9月募集、10月結果公表（表彰式未実施）

ク 企画展「旅を記す ～山頭火からの便り～」関連イベント

「コリントゲームで遊ぼう！」11月28日（土）

御神幸祭の日に合わせ、山頭火も句に詠んだ「コリントゲーム」を交流室に設置し、自由に遊んでいただきました。参加者には参加賞を配布しました。

ケ 企画展「旅を記す ～山頭火からの便り～」関連イベント

「山頭火カルタで書き初め大会」1月9日（土）

山頭火いろはカルタをA4サイズに拡大した絵札でカルタ取りをした後、取り札の中からお気に入りの句を選んで短冊に書き初めしていただきました。今回は大きな絵札を使用し、身体を動かすカルタ取りとなりました。

コ 企画展「俳句の中の生き物」関連イベント

「消しゴムはんこ作り」2月13日（土）

講師：JESCA 認定消しゴムはんこクリエイター 藤井哉香さん

講師がデザインされた桜や梅、山頭火の図案をもとにした消しゴムはんこ作りを開催しました。はんこが出来上がると山頭火の句をつけて絵葉書に仕上げ、最後はひとりずつ発表していただきました。

小・中学校等の社会見学や、団体利用等の観覧者から要望があったときは、職員が解説を行いました。また、依頼があったときは、市内や県内の公民館や各種行事等への出前講座もおこないました。

⑤ 交流活動

市民ギャラリーやふるさと展示交流室等を利用して、文化協会等と連携し、市民の作品等を展示することで、市民の文化活動を支援し、市民文化の振興を図ります。市民ギャラリーについては、今年度は市民による使用はありませんでした。交流室については、防府ふるさとコールが、山頭火の歌を来館者に聞いてもらったり一緒に練習したりして交流を広げるために活動しています。

また、市内の新たな文化施設として、うめてらすや周辺の商店、地域住民団体等と良好な関係を築くよう努めました。

⑥ 本財団内部の連携事業

本財団でこれまで実施している、音楽・美術・視聴覚ライブラリー・図書館等の事業と山頭火ふるさと館の事業との連携を図って相互の事業発展につなげていくことを目指しました。

また、他施設にも投句箱や今月の一句を設置する等、財団全体で山頭火ふるさと館の事業を支援しました。

ア 「アナザーワールド 防府でちょっと違う世界を見てみませんか」

財団4館の連携事業として開催しました。ことば漢字作家のいとうさとし氏に制作委託し、「しあわせます」というひらがなで作った「防府」という漢字の「ことば漢字」が、4館すべて巡ると完成するスタンプラリーを実施しました。

(3) 管理業務

① 施設・設備・備品の維持管理と環境整備

施設・設備・備品の点検と日常的な修繕を適切に実施し、日常のかつ計画的な清掃業務を行うことにより、来館者が安全で快適に利用できる環境整備に努めました。

② 保安・警備・防犯対策

山頭火ふるさと館には入館無料であり、誰もが自由に出入りできる環境にあるため、職員による定期的な見回りや監視カメラの活用により、常に的確な館内・館外の状況把握・防犯管理に努めました。交流室に設置している書籍については、防犯対策として、持出禁止であること等の表示をしました。

安全管理上問題がある行為や迷惑行為に対しては、警告文を貼り出したほか、利用中止や退館の措置を講じるなど、必要に応じて警察への通報を踏まえた毅然たる態度で対応しました。

③ 危機管理

自然災害、火災、事故、犯罪等の発生に適切に対処するため、危機管理マニュアルや危機管理体制の整備、消防法等の関係法令に基づく定期訓練の実施、救急救命講習会等への定期的な参加等により、全ての職員が、緊急事態の発生や危機を迅速に認識し、的確な対応が取れるよう備えました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大を受け、飛沫防止シートの設置やフェイスガード、マスク、ゴム手袋の着用など、職員の感染防止対策を徹底しました。

2 科学及び科学技術に関する知識の普及・啓発を図る科学館運営事業

第三期指定管理期間の最終年（5年目）となった令和2年度は、当初は、東京五輪に関連した企画展等、体験をメインとした事業を多く予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、体験型の事業や常設展示の利用を中止しました。

そこで、コロナ禍でも多くの方々に、安心・安全に配慮しながら、科学の楽しさや面白さが伝わるような事業を提供できるよう、観覧型のパネル展・スポット展、非接触型のクイズラリー、自宅でも科学を体験できるような内容の動画・配布用工作キットなど、新規事業を急遽企画・制作しました。

大規模な事業内容の変更となりましたが、3密を避けるなどの新型コロナ対策を講じながら、科学の学びの場を止めないよう、多様な科学事業を進めて参りました。

(1) 教育普及事業（資料 1 2 頁～1 4 頁参照）

① 日常事業

当館の展示は、光と色の性質や身近な科学現象の原理などを紹介する 2F 常設展示室をはじめ、地域の自然コーナーや、宇宙と太陽の謎や生命の進化の歴史に触れることのできる回廊展示室などで構成されています。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、ほとんどが体験型展示物で構成されている 2F の常設展示室を、9 月 1 1 日まで封鎖しました。9 月 1 2 日からは一般開放し、平日に団体予約が入っている日は団体専用とするとともに、土・日・祝日は展示室入口にスタッフを配置し、時間ごとの人数制限対応や定期清掃を行うなどの感染防止対策を行って運営しました。

さらに、日々の団体利用状況（2F の利用可否）を館の HP で随時更新・ご案内したり、団体利用により常設展示が利用できなかった来館者には、簡単に科学を体験できる工作キットを配布したりすることで、サービス向上に努めました。

「サイエンスショー」、「たのしい工作」、「ソラールの科学教室」の週末に実施する日常事業につきましては、新型コロナウイルスの状況に応じて、休止や内容の変更等を行い、少しでも多くの来館者へ科学を学ぶ機会を提供しました。なお、3 密を避けることが困難な「太陽望遠鏡のガイドツアー」は中止とし、代わりに来館者が日々の太陽の状況を観察できるように、太陽望遠鏡のライブ映像等を館内に展示しました。

本年度の新たな取り組みとしては、非接触で観覧型の常設展示を活用した「クイズラリー」や、自宅でも体験できる動画作成・公開などを実施し、コロナ禍でも科学館としてできる科学普及活動を進めました。

ア たのしい工作

本年度は、新型コロナウイルス対策として、通常行っている対面指導は中止し、コロナ禍でも継続的に来館者に工作を提供できるよう、持ち帰り専用の「工作キット」を準備し、土・日・祝日、夏休み、冬休み、春休みに来館者（希望者）に配布しました。また、対面指導の代わりに、工作工程動画（4 月～12 月工作分）の館内公開や、作り方の手順書を制作して工作キットと共に配布するなど、来館者が自宅でも簡単に工作ができるよう工夫し、サービス向上に努めました。

毎月工作内容を変更し、「くるくるまわる！ バランスモビール」など、計 11 種類（4 月と 12 月は同じ内容）の工作を実施し、6, 577 人の来館者に配布しました。また、6 月～8 月は、企画展「へんしん！ 錯覚立体展」のテーマに合わせた内容にし、企画展の展示内容やテーマとの関連性を持たせる工夫をしました。

イ サイエンスショー

本年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、4月から8月までサイエンスショーを中止しました。

その後9月からは、社会見学の学校団体などに対して、換気や距離の確保などの対策を講じながらショーを実施し、コロナ禍で行動が制限される状況の中、社会見学を楽しみにしている児童・生徒に少しでも楽しみながら科学への興味を深めてもらえるよう取り組みました。

また、3月27日からの春休み期間中は、ご要望の多かった一般の来館者向けのサイエンスショーを再開し、3密を避けながら1日2回実施しました。

ウ ソーラーの科学教室

防府の自然や星空の観察、ものづくり等を通して科学の奥深さを追及する内容の科学教室を実施しました。天体観察教室「部分日食をみよう」、自然観察教室「昆虫の冬ごもり観察会」、化学実験教室「発泡入浴剤をつくろう」など、合計17講座を開催し、計340人の受講がありました。

本年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、第1期（4月～8月）は天体観察教室を除く9教室を中止しました。10月からは、参加者同士が対面にならない机の配置や、定員を少人数にするなどの新型コロナ対策を講じて実施しました。

エ クイズラリー

来館者に常設展示の科学を、また違った視点で体験し学んでいただけるよう、「クイズラリー」を実施しました。パネル展関連、社会見学等の学校団体向け、幼児向け、一般向けなど、計6種類の対象に応じた内容のクイズラリーを考案・作成し、状況に応じて活用しました。

新型コロナウイルス感染防止対策、及び展示の汚損・破損を防ぐため、鉛筆やバインダーは使用しないように構成し、さらに、体験後には解説を含む解答用紙を配布することで、より参加者が深く科学を学べるよう工夫しました。

オ 「おうちでやってみよう！サイエンス」動画公開

初の試みとして、「おうちでやってみよう！サイエンス」と題した、自宅でもできる簡単な科学の実験や工作などを紹介する、職員制作のオリジナル動画を当館HPと館内で公開しました。また、必ず「なぜ？」を問う発問を入れるなど、自分で考える要素を盛り込んで構成し、動画を見た後も、自由研究に繋がるような工夫をしました。

特に、新型コロナウイルスの影響で外出を控えなければならなかった4月から9月の時期に、計17本の動画を公開しました。

② 特別事業

子どもから大人までの幅広い年齢層に対して、わかりやすい展示方法や体験を通して、科学への興味・関心を高めることができる事業を実施して参りました。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、当初予定していた、「春休み工作教室」、「サイエンスアカデミー２０２０」、企画展「スポーツを科学する」、「防府市小中学校理科作品展」、企画展「ミラクルワールド！万華鏡展」、「ソラールのクリスマス２０２０」の事業を中止しました。企画展「へんしん！錯覚立体展」、「未来の科学の夢絵画展」、特別展「国際周期表年特別展」につきましては、会期・内容等を大幅に変更して実施しました。

また、中止した体験型事業の代わりに、観覧型のスポット展・パネル展を新規に企画し、コロナ禍に対応した、新しいスタイルの事業として来館者に科学普及を行いました。

さらに、新型コロナウイルス感染防止対策として閉鎖した２階の常設展示に代わる展示、及び社会見学の団体向けの追加展示として、天文をテーマにした３種のパネル展を３期に分けて企画展「へんしん！錯覚立体展」と同時開催し、サービス向上に努めました。

ア パネル展「わかんないよね新型コロナ」

全国科学館連携協議会が作成した巡回展示「わかんないよね 新型コロナ」を利用し、新型コロナウイルスとは一体どのようなものなのかなど、科学視点から来館者に紹介しました。

イ 企画展「へんしん！錯覚立体展」

実際に実物を見ることで驚きのある、本展の錯覚作品を通して、目で見てもノの形を認識するときの脳の働きを考え、体験できる企画展として開催しました。鏡を使う、違う方向から見る、光を当てて影にする、見る距離を変えるなどの見方を変えると、同じものなのに、それがまったく別の形に見えるとても不思議な錯覚作品を展示しました。

また、明治大学研究特別教授の杉原厚吉氏が本展のために手掛けた日本初の錯覚作品も展示しました。さらに、１０月に杉原氏を講師としてお招きし、特別講座「ふしぎな錯覚立体をつくろう」も実施しました。

４月９日から５月２４日までの臨時休館、及び、他の事業の中止に伴い、当初４月２９日から６月７日を予定していた会期を大幅に変更し、１２月６日まで延長して開催しました。会期延長により、来館者の分散をねらい、より多くのお客様に安心して展示をご覧いただけるような対策を講じました。

会期中は、１３，４１４人の来館がありました。

ウ パネル展「星のある風景」

天文や宇宙に興味をもって頂き、いつまでも美しい星空が見られるよう環境問題にも意識を向けて頂くことを目的に、プロやハイアマチュアの天体写真家の方々が撮られた星景写真を展示しました。本展は、令和元年度事業として、1月25日から開催し、途中臨時休館のため会期短縮となったパネル展の展示作品の内、約40点を厳選して展示したものです。

エ スポット展「防府市少年少女発明クラブ 未来の科学の夢絵画展」

「未来の科学の夢絵画展」は、(公社)発明協会が毎年募集しているもので、全国の幼稚園・保育園・小学校・中学校及び外国人学校のみなさんが未来の夢を描いた科学作品の中から全国展受賞作品を展示する展覧会です。

本年度は、新型コロナウイルスの影響で全国巡回展示が中止になったことにより、当館で活動している防府市少年少女発明クラブ員が、2019やまぐち未来の科学の夢絵画展に応募した全作品を館内展示して開催しました。

オ パネル展「お月さま・近いけどナゾのある天体」

月は、地球から一番近い天体で、地球に様々な影響を与えています。しかし、身近な天体なのに、我々の知らない謎もあります。本展は、天文をテーマにしたパネル展第2弾と位置付け、月に興味をもつていただき、他の天体や宇宙のことにも関心をよせていただくことをねらいとして、月の謎に迫る内容の、約30点の写真や図で構成したパネル展として開催しました。

カ パネル展「太陽の科学～地球に一番近い恒星～」

天文をテーマにしたパネル展第3弾と位置付け、私たち人類をはじめとした、地球上に生きている生物に、大きな恩恵を与えている大切な星「太陽」をテーマにしたパネル展を開催しました。私たちが思っている太陽に関する疑問に対し、分かりやすい解説や図などで紹介しました。

キ スポット展「走る！鉄道模型展」

冬休み期間中、当館の常設展示の中でも特に人気のある「鉄道模型」の規模を拡大し、昭和初期から平成の半ばにかけて活躍していた列車の模型（1／80サイズ）を複数同時に走らせるイベントを開催しました。様々な車両の歴史や走行する仕組みの解説も行い、科学館ならではの展示になるよう努めました。

12月25日から1月7日までの会期中、532人の来館がありました。

ク スポット展「すごい宿題！～きみだけのひみつ～」

各界の最前線で活躍する人たちが、子どもたちに正解のない不思議な問いを出すNHKの番組「すごい宿題」で、絵本作家のヨシタケシンスケさんが出した宿題を体験できるイベントを開催しました。本展は、全国科学館連携協議会が

NHKと連携し、全国の科学館のみで展開したイベントで、コロナ禍で色々と制限を受ける子どもたちに、自分だけのわくわくする時間をつくってもらいたいという願いを込めて実施しました。

12月25日から3月31日までの会期中、対象となる子どもの来館者に、本展のために制作されたオリジナル冊子を1,800部配布しました。また、紹介VTRと合わせて、宿題に取り組めるスペースを設置し、来館者が本イベントを最大限活用できるよう努めました。

ケ スポット展「冬の昆虫探検 虫は今何してる？」

昆虫といえば夏の印象が強いですが、実は真冬でも様々な昆虫たちに出会うことができます。そうした昆虫たちをパネル・標本・生体展示で紹介し、身近な自然と触れ合うきっかけづくりを目的としたスポット展を開催しました。

このようなテーマ、且つ、冬休み期間中の展示開催は、当館としては初の試みで、来館者にこれまでとはまた違った自然科学の学びの場を提供することができました。また、屋外で実際に越冬する昆虫のすがたを観察する関連講座も実施しました。

1月5日から1月17日までの会期中、854人の来館がありました。

コ 特別展「国際周期表年特別展」

2019年に国際周期表年実行委員会がメンデレーエフ周期律発見150周年を記念して制作した巡回展示を利用し、周期表や元素を実物と体験で楽しく学習できる特別展として開催しました。また、巡回展示物と併せて、別途借用した元素の実物資料の追加展示も行いました。

当初、3月7日までの開催予定でしたが、令和3年度春の企画展が、新型コロナウイルスの影響によるテーマ変更となったことで、春の企画展と内容が関連する本展の会期を5月16日まで延長し、春の期間もより多くの来館者に本展を見ていただく機会を提供できるように努めました。

1月23日から3月31日までの会期で、2,636人の来館がありました。

(2) 情報収集保管事業（資料15頁参照）

当館の太陽望遠鏡による太陽観測映像を、デジタルデータとして保管に努めました。

(3) 啓発調査研究事業

科学教室や工作などの教材開発に取り組みました。

(4) 学校連携事業及び外部連携事業（資料15頁～18頁参照）

① 学校連携事業

本年度の社会見学の団体受入れについては、学校団体別に館内での体験スケジュールを作成・提案して調整し、団体同士や一般の来館者との接触を避けるなどのコ

コロナ対策を行いつつも、充実した館内での科学の学びができるよう努めました。

また、予め希望のあった学校団体向けのサイエンスショーやクイズラリーも実施し、要望にお応えしました。

市内外の小中学校への出前講座として、理科の出前授業やクラブ活動、科学部の活動、PTA 活動、放課後子ども教室などに対応し、青少年への科学の普及活動を積極的に行いました。また、市内の幼稚園・保育園からの出前講座要請にもお応えしました。

館内実習として、博物館実習生を3人受け入れ、人材育成支援も行いました。さらに、教職員の研修（中堅教諭等資質向上研修）として、市内外の小中学校から、9人の教職員を受け入れました。

② 外部連携事業

防府市教育委員会や公民館、防府市保育協会、山口市男女共同参画会議と連携して、家庭教育学級や指導者向け講座、一般向け講座など、それぞれが主催する活動の講師として、職員を派遣しました。

毎年恒例となった、地元コミュニティFMとの連携事業「紅葉どんぐり便」に協力し、小学生を中心に広く一般市民に沖縄と防府の自然環境の違いについて学べる機会を提供しました。当館では、紅葉とどんぐりをテーマにした特別講座や、沖縄に紅葉とどんぐりを送るための活動を実施しました。

また、外部機関との連携事業である、発明科学教室や宇宙教室、コズミックカレンダーを実施しました。

さらに、防府市と連携して、環境教育特別講座や防府市教育“夢”プロジェクト「菅公みらい塾」も開催しました。

③ 財団連携事業

防府市文化振興財団が管理運営する4施設（アスピラート、ソラール、山頭火ふるさと館、防府図書館）が連携して事業を行う初の試みとして、「アナザー・ワールド スタンプラリー」と題したスタンプラリーを実施しました。

当初は、4館でテーマを統一した、それぞれの館が開催する企画展を巡るスタンプラリーとして春に実施予定でしたが、2月からの新型コロナウイルスの影響により、急遽、実施を秋に変更しました。

防府の方言である「しあわせます」で「防府」という漢字になる「ことば漢字」を使用し、また、分野の違う4館全部のスタンプを重ね押ししなければ完成しないデザインにしたことで、普段は来館されない方が、スタンプラリーに参加するために初めて来館するという相乗効果がありました。

会期中、3,386人（4館でのべ13,544人）の利用がありました。

(5) 科学教育普及指導員派遣事業

本年度は、新型コロナウイルスの影響もあって特に要望の多かった、市内の小中学校のクラブ活動や放課後子ども教室への出前講座の依頼に対応するため、必要な知識や技術をもった当館の科学教育指導員（元専門職員）を派遣し、講座を実施しました。19回実施し、のべ275人の児童・生徒へ、実験・工作等の指導を通して、科学の不思議さや楽しさを伝えることができました。

(6) 防府市少年少女発明クラブ

青少年の科学技術に対する夢と創造力を育み、創造性豊かな人間形成を図ることを目的に、当館を活動の場として開設された発明クラブの活動も20年目になりました。ボランティアグループ「サイエンスFUNクラブ」の皆様の多大なお力をいただき、充実した活動を行っています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響による臨時休館等の理由から、4月から9月までの活動を中止し、10月から活動を再開しました。例年の活動内容と遜色無く、且つ、密集を避けて1講座1会場にするためにスケジュールの組み替えと内容の見直しを実施するなどの工夫をして活動しました。

(7) 科学施設の管理運営

① 防府市青少年科学館

市民の科学及び科学技術に関する知識の普及及び啓発を図るとともに、創造性豊かな青少年を育成することを目的として設置された当施設は、その設置目的にかなうよう管理運営に努めました。

ア 施設整備・運営

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、4月9日から5月24日まで臨時休館しました。開館にあたっては、館内の消毒清掃や換気、感染リスクの高い展示物の使用中止、休憩スペースのテーブル撤去、人数制限など、安全な運営のための対策を適切に実施しました。また、館内各所にアルコール消毒液を設置するとともに、来館者への検温や連絡先の記入依頼など感染防止に取り組みました。

その他、感染症予防の観点から、自動水栓以外の水道蛇口を回転式からレバー式に交換し、女子トイレ1か所を洋式化する工事が、防府市において実施されました。

施設の維持管理については、清掃や設備管理業務などにおいて、受託者と意見交換や情報共有を行いながら、お客様の安全と安心を第一に適切な管理・運営に努めました。空調設備や太陽望遠鏡などで経年劣化に伴う機器の不具合が発生し、その都度修繕を行いました。交換部品が手に入らず機器の更新が必要な設備も

あります。開館から２３年が経過し様々な設備の劣化が進んでいますので、防府市と情報を共有し、長寿命化に向けた対策の検討を次年度も継続していきます。

平成２７年度から開始した社会見学の引率教職員に対する観覧料免除は、本年度も引き続き実施しました。

イ 利用状況（資料１９頁～２０頁参照）

令和２年度の入館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、前年度に比べ約７１％減少し１７，３０１人でした。

また、館外普及活動として、市内の小中学校や公民館の家庭教育学級などへの派遣講座を行い、１，２０９人の参加がありました。入館者及び館外参加者人数は総合計で１８，５１０人です。

３ 学校教育及び社会教育における視聴覚教育の振興に関する事業

学校教育及び社会教育における視聴覚教育の振興と学習支援を行うことを目的に、視聴覚教育事業を実施しました。

（１） 視聴覚機材や教材の計画的な充足（資料２１頁参照）

例年８月に開催している防府市視聴覚ライブラリー運営委員会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮して中止とし、運営委員の皆様には、令和元年度の事業報告、令和２年度の事業計画推進状況等の資料を送付しました。

また、自主制作教材としては、室町時代初期に行われた防府市敷山駿観寺の戦いや敷山城跡で毎年行われている慰霊祭を紹介するＤＶＤ「敷山のたたかい」を制作しました。

（２） 視聴覚機材や教材の貸出管理（資料２１頁～２２頁参照）

視聴覚機材の貸出は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で減少し、２２７件、８６６日でした。しかし、視聴覚教材の貸出は、小学校等の一斉臨時休業の際に学童保育での利用があり、９５件、１，３５１日と大幅に増加しました。

今後も、市民の皆様の学習活動を支援できるような視聴覚機材や機器を揃えるとともに、引き続き市内小中学校や貸出対象となる団体へ向けたＰＲを行ってまいります。

（３） 防府市青少年科学館の多目的ホールでのビデオ上映（資料２３頁参照）

科学事業の企画展会場として多目的ホールを使用したため、ビデオ上映期間は例年より短くなりましたが、科学により一層興味を持っていただけるような教材を選定し、上映しました。

（４） 市内小学校あて巡回ビデオの配送（資料２３頁参照）

防府市小学校教育研究会視聴覚教育研修部の先生方が選定された教材（ＤＶＤ）

が市内小学校を巡回する「巡回ビデオ」の実施に伴い、小学校 17 校に教材 33 点を配送し、小学校の視聴覚教育を支援しました。巡回期間は、一斉臨時休業の影響で例年に比べ短くなり、令和 2 年 8 月 18 日から令和 3 年 2 月 4 日までの間でした。

(5) 講習会の開催

例年、ビデオ撮影編集講習会、タブレット活用講習会を開催しておりましたが、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

(6) ホームページの充実

自主制作の「地域教材ビデオ」や教材目録などについて、防府市視聴覚ライブラリーのホームページから自由に閲覧できるよう、引き続き管理しました。

4 教育及び文化の情報拠点として生涯学習の支援を図る図書館運営事業

教育及び文化の情報拠点として、図書館資料・情報提供サービスの向上・強化を図るとともに、その資料・情報を活用できる生涯学習活動の場として、集会・文化活動の推進に努めました。

また、「防府市図書館サービス振興基本計画」や「第 3 次防府市子ども読書活動推進計画」に基づき、図書館利用促進や読書活動推進のための施策に取り組みました。

※ 具体的な数値統計については、別紙利用統計他を参照。

(1) 誰もが等しく学べる、豊かな資料と機能を持つ図書館

① 市民の日常生活、学習活動に寄与する、質・量ともに充実した資料を持つ図書館 ア 資料収集業務

図書館資料の適正な選書・収集を「防府市立防府図書館資料収集要綱」に基づいて行い、質・量両面の充実に努めました。

地域資料、特に防府市関係資料については、地方紙の記事他から積極的に収集し、市関係者関連資料・市の行政関連資料及び歴史・地誌・民俗資料等、多岐にわたる分野の資料収集を行い、防府図書館独自の特徴的なコレクションの形成に努めました。

イ 資料分類・目録整備業務

資料の受入れに際しては、受贈資料も含めて体系的に管理するため、迅速・正確な資料組織化・装備を行いました。資料の分類は日本十進分類法新訂 10 版に基づき適切な書架分類と配列を行い、資料受入れと同時に、日本目録規則に基づく事務用コンピュータ目録を作成し、利用者に分かりやすい O P A C（オンライン閲覧目録）検索画面等を提供しました。

ウ 書架管理・蔵書点検業務

月例整理日だけでなく、常に書架の整理整頓に努め、返却資料も迅速に処理しました。延滞資料については電話・葉書・Eメール等により定期的に返却を督促し、延滞資料に予約が入った場合は随時督促を行いました。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館中（4月8日（水）～5月24日（日））には、閉架書庫の和書を整理し、こども図書コーナーに「日本の昔話絵本」・「世界の昔話絵本」、ヤング図書コーナーに「マンガ」、児童郷土コーナーに「山口県」・「防府市」のコーナーを設けました。

さらに、10月6日（火）～8日（木）と3月2日（火）～4日（木）には、定例の全開架資料の蔵書点検作業を行いました。

エ 資料提供業務

窓口カウンターでの、資料の貸出及び返却業務、利用登録業務、予約・リクエスト受付業務等を、常に正確・迅速に行うよう努めました。

また、個人情報保護の観点から、自動貸出機利用奨励のための案内を行いました。

さらに、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館中、4月13日（月）～4月16日（木）、5月11日（月）～5月24日（日）には、本館入口のエントランスホールで、予約資料の貸出業務と予約・リクエストの受付業務を行いました。なお、利用者が安心して図書を利用できるよう、エントランスホールに書籍消毒機を設置し、9月30日（水）から利用に供しました。

② 老若男女を問わず、様々な立場の人が、誰でも気軽に楽しく利用できる図書館

ア コンピュータシステム管理業務

コンピュータシステムの円滑な運用により、サービスの強化に努めました。Web上での資料検索・予約・貸出期間延長、利用者が自らの読書履歴を管理する読書手帳、利用者がWeb上で読みたい本や既に読んだ本を管理するMy本棚、読書目標や読書量を個人管理する読書マラソン等の機能の活用促進に努めました。

イ 情報発信（広報）業務

ホームページを適切に管理運営するため、随時情報を更新し、内容の整備と情報提供サービスの充実に努めました。

また、「ほうふ図書館だより」「ほうふとしょかんこどもしんぶん」「新刊紹介」（以上、月刊）、「行政関係図書紹介」（季刊）等の広報紙を発行し、行事関係チラシ等をその都度作成するとともに、市広報「ほうふ」（月2回刊）、防府市文化振興財団機関紙「イベントアイ」（隔月刊）、防府市メールサービス（随時）、及び防府市文化振興財団「メールマガジン」（毎月）に図書館関係記事を掲載しました。

さらに、地域コミュニティーFMラジオ「FMわっしょい」の『防府市からのお知らせ 情報モリモリ』に、図書館職員が毎月第2・4木曜日に定期出演しました。

ウ 図書館年報作成業務

「令和元年度図書館年報」及び「数字で見る防府図書館（令和元年度の統計より）」を5月31日（日）付で発行し、ホームページにも掲載しました。

エ サービス環境整備業務

図書館施設・設備・備品の点検と修繕を適切に実施し、恒常的で計画的な清掃業務を行うことにより、安全で快適に利用できる環境整備に努めました。

また、増加したCDを配架するため、8月31日（月）、エントランスホール奥にCD用ラックを設置しました。

さらに、こども図書コーナーの椅子、雑誌コーナー・ブラウジングコーナーのソファ、書棚横のスツール、それぞれの座面布の張り替えを行い、エントランスにベンチを設置しました。

オ 安全対策・危機管理業務

施設管理会社・警備会社・警察等との連携を密にしながら、常に的確な状況把握と防犯管理に努め、施設管理会社とは毎月1回定期協議を行いました。安全管理上問題がある行為や迷惑行為に対しては、毅然たる態度で対応しました。AEDや防犯カメラの点検を毎日開館前に行い、施設の危機管理マニュアルに基づき、常に事故や犯罪等の発生に迅速・的確な対応が取れるよう備えました。10月8日（木）と3月4日（木）には図書館単独の避難訓練を行い、10月17日（金）と3月25日（木）にはルルサス防府全体の避難訓練に参加しました。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月8日（水）から5月24日（日）までを臨時休館としました。サービス再開後の5月25日（月）からは、受付カウンターにはビニールシート壁を設けるとともに、閲覧用の座席数は半減して密接を避け、館内放送によって注意を喚起するなどの対応策をとりました。2月12日（金）からは、連合山口県央地域協議会防府地区会議から寄贈を受けた体表検知カメラと足踏み式消毒スタンドを入口に設置し、利用者が入館前に体温を測り、消毒することができるようになりました。

なお、利用者には手指の消毒とマスクの着用をお願いし、自習目的の研修室の使用、準備室・お話のへや・作業室・障害者サービス室の使用を中止するとともに、DVD・CDの視聴、インターネットコーナーの使用、持込PCコーナーの使用については時間制限を設けました。

さらに、台風１０号接近による危険を回避するため、９月７日（月）を臨時休館としました。

カ 利用マナー啓発業務

新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校により、小中学校の夏休み期間が短縮されたことを受け、７月１日（水）～８月３１日（月）に予定していた「マナーアップキャンペーン」は中止し、代替措置として、利用マナー啓発用のポスターを作成し、館内に掲示しました。

③ 図書館から遠い所に住んでいる人にも、サービスできる図書館

ア 移動図書館車「わっしょい文庫」運行業務

市内全域サービスの充実を図るため、移動図書館車に常時約３５００冊の図書を積載し、６コース３７ステーションを２週間に１回の周期で巡回しました。

なお、市役所の建て替え工事に伴い、３月２５日（木）をもって市役所ステーションへの運行を休止しました。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館中は、４月１５日（水）・１６日（木）の２日間を除いて移動図書館車の運行をとりやめましたが、５月１１日（月）～２２日（金）の間は、普通乗用車に予約資料を積載し、各ステーションに出向いて貸出業務を行い、併せて返却業務と予約・リクエストの受付業務を行いました。

さらに、１０月１９日（月）に行われた富海小学校２年生の生活科の授業と、１１月１６日（月）に行われた玉祖小学校２年生の生活科の授業において、移動図書館車の臨時出張サービスを行いました。

④ 調査・研究・読書相談などに、的確に対応できる図書館

ア レファレンス（調査研究相談・読書相談）業務

資料相談カウンターにおいて司書有資格者が、利用者への調査研究活動支援、資料利用案内、読書案内等のレファレンスサービスを行いました。児童カウンターにおいても、資料利用案内・読書案内等の業務を行って、子どもの学習活動・読書活動を支援しました。

また、参加登録している、国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」閲覧業務の利用促進や「レファレンス協同データベース」の活用を図るとともに、他の図書館や市内外の関係機関等に照会したり、利用者をそれらの機関へ案内・紹介したりする、レフェラルサービスを行いました。

さらに、レファレンス事例集や新着図書案内・テーマ別ブックリスト・パスファインダー（テーマ別資料利用案内）等の充実に努めるとともに、利用者とのコミュニケーションを図るフロアワークの強化に努めました。

イ 図書館資料の複写サービス業務

利用者の求めに応じ、著作権法や防府市手数料条例に基づいた図書館資料の複写サービスを適正に実施しました。

(2) 地域の人々と手を携えて、豊かな交流の場を創る図書館

① 様々な図書館事業を利用者と協働して行い、学習交流の場、コミュニティセンターとしての機能を持つ図書館

ア ボランティア団体・生涯学習グループ等との協働推進業務

「第10回防府市子ども読書フェスティバル」(7月11日(土)開催予定)に向けて、4月9日(木)と5月21日(木)に実行委員会を開催しましたが、新型コロナウイルス感染症流行の終息が見通せないため中止しました。

また、「第30回防府図書館まつり」を、実行委員会、ボランティア団体等と協働で11月1日(日)に開催しました。

さらに、3月14日(日)には、図書館まつりの30回開催を記念して、「第30回防府図書館まつりー展示&催しものの部ー」を開催しました。

② 学習ボランティアや、障害のある利用者のためのボランティアが、いきいきと楽しく活動できる図書館

ア ボランティア活動推進業務

防府図書館で活動するボランティア団体との連携を図り、現状と課題について意見交換をするため、1月28日(木)に「防府図書館ボランティア連絡会議」を開催しました。

また、図書館ボランティアの新規育成を図るための講座「図書館ボランティア養成講座」を、2月4日(木)、11日(木)、18日(木)、25日(木)の4回シリーズで開催しました。

(3) 生涯学習活動の拠点として、集会文化活動に力を入れ、地域の力を高める図書館

① 様々な図書館行事を積極的に行い、地域の文化発展に貢献する図書館

ア イベント・懇談会業務

・ トークイベント

「第10回防府市子ども読書フェスティバル」(7月11日(土)開催予定)において、詩人林木林氏によるトークイベントを開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

・ ビブリオバトル

小学生から大人まで参加できる本の紹介コミュニケーションゲーム「ビブリオバトル(知的書評合戦)」の令和2年度第1回目を、「第10回防府市子ども読書フェスティバル」(7月11日(土)開催予定)の中で開催する予定でした

が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。第2回目は11月23日（月）に、図書館内ブラウジングコーナーで開催し、第3回目は3月14日（日）に、「第30回防府図書館まつり—展示&催しものの部—」の中で開催しました。

- ・ 利用者懇談会

12月3日（木）には、図書館サービスの向上を図るために、利用者の意見や提言を聞く「防府図書館利用者懇談会」を開催し、建設的な意見を多数いただきました。

- ・ 月いちキネマ

今年度からの新企画として、毎月1回、主にシニアを対象とした映画上映会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止が続き、10月22日（木）に研修室で第1回目を開催しました。

- ・ シニア向け実用講座

今年度からの新企画として、年2回、主にシニアを対象として、生活する上で役立つようなテーマで講座を開講する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため2回とも中止しました。

イ 資料展示・展覧会業務

展示コーナー・中央カウンター前・児童カウンター前での月例資料展示、及び新刊コーナー横・ヤング図書コーナー前でのミニ資料展示を、時宜に即したテーマを選定し定期的に行いました。

また、ブラウジングコーナーにおいては、図書館利用サークル「布絵本「結う」」の皆さんによる作品展示（2月1日（月）～3月1日（月））、防府市情報政策課による「令和2年度統計コンクール入賞作品」の展示（3月5日（金）～3月14日（日））、「えじたま」の皆さんによる「世界自閉症啓発デー 発達障害啓発週間 ～伝えたい私たちの思い～」の展示（3月18日（木）～4月16日（金））を行いました。

② 生涯学習グループ活動を奨励し、その育成を図る図書館

ア 生涯学習グループ活動奨励・施設利用等許可業務

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月1日（水）～5月31日（日）の間は、研修室・準備室・お話のへや・作業室・録音室・障害者サービス室の使用を中止しましたが、6月1日（月）から、研修室・録音室については、人数制限を設けるなどの条件付きで利用を許可しました。

また、生涯学習グループやボランティア団体の新規会員募集に役立てるため、「防府図書館サークル・生涯学習講座情報誌」を2月1日付で発行し、関係機関に配布しました。

(4) 地域の歴史や文化を大切にするとともに、国際理解を深めていく図書館

① 地域（郷土）資料を、積極的に収集・整理・保存・提供する図書館

ア 地域（郷土）資料収集業務

地域資料、特に防府市関係資料については、市関係者関連資料・市の行政関連資料及び歴史・地誌・民俗資料等の収集を行い、防府図書館独自の特徴的なコレクションの形成に努めました。

② 地域（郷土）の歴史や文化に係る事業を積極的に行う図書館

ア 上山満之進と三哲文庫顕彰業務

展示室内の常設展示「上山満之進と三哲文庫」について、随時、展示替えを行いました。

また、上山満之進の誕生日に合わせ、ブラウジングコーナーにおいて「三哲文庫開館から80年」と題してパネル展示（9月2日（水）～10月5日（月））を行いました。

イ 防府史料刊行業務

「防府史料」第70集『周南先生文集 初編 自一至二』（山県周南著）を9月30日付けで発行しました。

③ 姉妹都市などの図書館との交流事業を推進し、国際理解を深めるための資料を積極的に収集・整理・保存・提供する図書館

ア 春川市立図書館との資料交換業務

大韓民国春川市立図書館との資料交換協定に基づき100冊程度の資料を相互に寄贈し、受贈した資料を広く市民の利用に供しました。

(5) 様々な教育文化施設とのネットワークを進め、サービスする図書館

① 学校や公民館との連携を深め、支援事業・協力事業を推進する図書館

ア 学校図書館支援業務

防府市教育委員会や市立小中学校との連携を密にして、学校図書館とのオンライン・ネットワーク・システムを活用した学校支援図書貸出業務や、貸出文庫業務を行うとともに、学校司書との連携に努めました。

また、小学校で開催される選書会（9月3校・10月3校）のためのリスト作成や図書の貸出など、学校司書との連携に努めました。

イ 地域文庫・団体貸出業務

市内15ヶ所の公民館に配本所を設置し、200冊の図書を3か月に1回交換する地域文庫業務を行いました。

また、公民館・出張所会議に出席し、地域文庫に係る諸連絡・利用案内等を行いました。

さらに、市内の施設・団体等の読書活動を支援する団体貸出業務として、貸出文庫業務を行いました。なお、新型コロナ感染拡大防止のための臨時休館を契機として、4月13日（月）から、留守家庭学級を対象に、貸出のための選書を職員が代行する選書サービスを開始しました。

ウ 出張サービス

中関公民館「女性学級」に図書館職員を派遣し、図書館の利用案内をするとともに、「ビブリオバトル」を開催しました。

② 他の図書館や博物館・美術館との相互協力を推進する図書館

ア 他の図書館や文書館・博物館・美術館との連携業務

他の図書館との資料相互貸借・レファレンス協力・研修活動等を積極的に行うとともに、博物館や文書館等との連携にも努めました。

イ 防府市文化振興財団内連携事業

財団内の4館連携事業として、「アナザーワールド 防府でちょっと違った世界を見てみませんか」と題して、各館がそれぞれに企画展を開催するとともに、防府商工会議所の協力を得て、4館を巡るスタンプラリー（会期：10月17日（土）～12月20日（日））を開催しました。なお、図書館では「ガッタイ！ヘンシン！ふしぎな絵画展」（会期：10月9日（金）～12月20日（日））と題して、ブラウジングコーナーにおいてアルチンボルドの絵画と関係資料の展示を行い、11月1日（日）には「図書館まつり」の催し物の一つとして、図書館職員によるギャラリートークを行いました。

・ 文化事業との連携

防府市公会堂のリニューアルオープンに合わせて、ブラウジングコーナーにおいて「防府市公会堂リニューアル記念 防府市公会堂のこれまでとこれから」と題してのパネル展示（8月5日（水）～8月31日（月））を行いました。

・ 科学事業との連携

ソラールの「へんしん！錯覚立体展」（会期：5月26日（火）～12月20日（日））との連携企画として、関連資料ミニ展示「だまし絵の世界」（11月21日（土）～11月30日（月））を行うとともに、杉原厚吉講師による企画展開催特別講座「ふしぎな錯覚立体をつくろう」（10月25日（日）開催）の中で、図書館職員によるブックトークを行いました。

また、「紅葉どんぐり便」の受付窓口を、図書館と移動図書館車に11月1日（日）から23日（月）まで設置し、チラシを作成・配付しました。全部で2,000枚の紅葉、50キロのどんぐりが集まり、12月2日（水）、ソラールから沖縄の小学校に向けてメッセージとともに発送されました。連携企画と

して、関連資料ミニ展示「紅葉とどんぐり募集中！」（11月5日（木）～11月20日（金））も行いました。

さらに、特別展「国際周期表年特別展」（会期：1月23日（土）～5月16日（日））との連携企画として、関連資料展示「元素と周期表の世界」（1月6日（水）～2月1日（月））を行い、「スポット展「すごい宿題 きみだけのひみつ」（会期：12月25日（金）～3月31日（水））との連携企画として、関連資料ミニ展示「すごい宿題～きみだけのひみつ～ ヨシタケシンスケのすごいしゅくだい」を行いました。

- ・ 山頭火ふるさと館との連携

山頭火ふるさと館の第三回自由律俳句大会（応募期間5月1日（金）～11月30日（月））のための投句箱を、図書館に設置しました。

（6）子どもたちの読書活動を進めていく図書館

① 子ども読書活動推進を図るための研究と事業を、積極的に行う図書館

ア 子ども読書活動推進業務

- ・ 子ども図書館員

7月27日（月）と8月3日（月）に開催を予定していた「子ども図書館員」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校により、小中学校の夏休み期間が短縮されたことを受け中止しました。

- ・ 防府市図書館を使った調べる学習コンクール

市内の小中学生を対象として「第8回防府市図書館を使った調べる学習コンクール」（募集期間8月1日（土）～9月30日（水））を、防府市教育委員会と共催しました。応募点数は、小学生3点、中学生1点でした。10月28日（水）に審査を行い、小学生は銀賞2点と銅賞1点、中学生は銀賞1点で、小学生の上位2点を全国コンクールに出展しました。

また、7月26日（日）と8月9日（日）に開催を予定していた「チャレンジ！調べる学習」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校により、小中学校の夏休み期間が短縮されたことを受け中止しました。

- ・ 読書感想文教室

今年度からの新企画として、7月25日（土）と8月1日（土）に開催を予定していた「読書感想文教室」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校により、小中学校の夏休み期間が短縮されたことを受け中止しました。

- ・ さんさんおはなし会（12月はクリスマスおはなし会）

今年度からの新企画として、毎月第3日曜日の家庭の日、図書館職員による

おはなし会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止が続き、9月20日（日）に研修室で第1回目を開催しました。

なお、12月20日（日）には、職員がサンタクロースに扮装して登場する「クリスマスおはなし会」として開催し、好評を得ました。

- ・ 職場体験・図書館見学等の奨励

職場体験等のインターンシップ、図書館見学等については、新型コロナウイルス感染予防のため、9月から受け入れを開始し、子どもたちの図書館への理解促進と利用拡大に努めました。

- ・ 出張イベント等の開催

11月20日（金）に、「子ども家庭支援センター“海北”」で絵本の読み聞かせを実施しました。

② 子ども読書活動推進のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館

ア ボランティアとの連携・協働業務

6月25日（木）、9月17日（木）、11月30日（月）に開催された「かが文庫」のおはなし会、7月9日（木）、9月24日（木）、2月3日（水）に開催された「防府図書館利用者サークル連絡会」の研修会、8月24日（月）に開催された「学校図書ボランティアネット・防府」の研修会、10月14日（水）、1月27日（水）、3月10日（水）に開催された「おはなしでんしゃ」のおはなし会において、それぞれ図書館職員によるブックトークを行いました。

また、1月14日（木）に開催された「学校図書ボランティアネット・防府」の研修会では、図書館職員による本の修理の講習を行いました。

（7） 障害者や高齢者に優しい図書館

① 障害者や高齢者が、気軽に楽しく利用できる図書館

ア 障害者・高齢者への資料・情報提供サービス業務

行政やボランティア団体等と連携・協力し、点字・音声資料・大活字本等の整備に努めるとともに、郵送貸出・視覚障害者用音声付インターネット設備等のサービスを行いました。

また、「防府市立防府図書館点字図書一覧」（令和2年度版）を作成するとともに、ボランティア団体「青い鳥の会」の協力を得てその点字版を作成し、関係機関に配布しました。

② 視覚障害者や高齢者のための対面朗読、音訳図書製作、郵送貸出などのサービスを積極的に行う図書館

ア 対面朗読、音訳図書製作、郵送貸出等の業務

ボランティアと連携し、対面朗読サービス・音訳図書製作等の推進に努めると

ともに、障害者への郵送貸出サービスについて、周知と利用促進に努めました。

③ 障害のある利用者のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館

ア 障害のある利用者のためのボランティア活動支援業務

障害のある利用者のためのボランティア活動を支援し、ボランティアによる施設・設備・資料等の活用促進に努めました。

5 収益事業

チケットの受託販売や、科学館、山頭火ふるさと館のショップ運営等により、公益目的事業の財源となる収入の確保を図りました（有料駐車場は営業休止）。これらの運営に当たっては、施設利用者への更なるサービス向上につながるよう努めました。

（１）文化施設の管理運営

コロナ禍の中、ホールでの式典、研修会や講演会、その他の施設での展示即売会や会議、研修会など、各施設の公益目的以外の利用についても感染防止対策を取りながら積極的に貸与し、施設の有効利用を図るとともに、地域振興の拠点となるよう努めました。利用者アンケートや市民からの提言などに基づいて、可能な限り各種改善を行い、利用者の立場に立ったサービスが提供できるよう取り組みました。

また、他施設で開催されるイベントのチケットを含めたチケットの受託販売も積極的に行い、お客様の利便性を高めるとともに、収入の確保にも努めました。

（２）有料駐車場の管理運営

営業休止中（イベント時に無料開放）

（３）青少年科学館ミュージアムショップの運営

ミュージアムショップでは、科学を身近に感じる商品や企画展の関連書籍を中心に販売し、科学館の魅力向上や利用者の利便性を図るとともに、財源の確保につなげました。

また、「幸せます」グッズも引き続き販売し、防府市のPRに努めました。

（４）山頭火ふるさと館ミュージアムショップ

受付横のミュージアムショップで、山頭火に関する書籍や物品など、山頭火ふるさと館来館の記念になるような物品を販売しました。

Ⅲ 理事会、評議員会

1 理事会

(1) 第1回理事会

決議があったとみなされた日 令和2年5月8日（金）

開催方法 決議の省略の方法（定款第37条第1項に基づく書面決議）

決議事項 ①令和元年度事業報告及び決算について

②令和2年度第1回評議員会の招集について（みなし決議）

(2) 第2回理事会

決議があったとみなされた日 令和2年6月12日（金）

開催方法 決議の省略の方法（定款第37条第1項に基づく書面決議）

決議事項 ③令和2年度資金調達及び設備投資の見込みの変更について

（防府市公会堂の舞台照明用調光操作卓不調に伴う新調（リース契約）のため）

④令和2年度第2回評議員会の招集について（みなし決議）

(3) 第3回理事会

開催年月日 令和2年10月8日（木）

開催場所 防府市公会堂3階 5号室

決議事項 ⑤山頭火ふるさと館の指定管理者指定申請の辞退について
（指定管理者申請要項の変更に伴い辞退するもの）

(4) 第4回理事会

開催年月日 令和3年2月17日（水）

開催場所 防府市公会堂3階 4号室

決議事項 ⑥令和3年度事業計画書及び収支予算書等について

⑦従たる事務所の廃止について

（山頭火ふるさと館の指定管理業務終了に伴うもの）

⑧規程の制定及び改廃について

（新設 公益財団法人防府市文化振興財団出向規程、公益財団法人防府市文化振興財団表彰規程）

（改正 職員就業規則、給与規定、契約職員等就業規則、無期転換職員就業規則、組織規程、文書取扱規程、公印規定、職員分限懲戒審査委員会要綱、コンプライアンス規定、職員の勤務評

定に関する規程)

(廃止 山頭火ふるさと館管理規程)

⑨令和２年度第３回評議員会の招集について

⑩事務局長兼防府市公会堂館長の選任について

(事務局長兼館長 小阪)

２ 評議員会

(１) 第１回評議員会

決議があったとみなされた日 令和２年５月２７日（水）

開催方法 決議の省略の方法（定款第２２条第１項に基づく書面決議）

決議事項 ①令和元年度事業報告及び決算について

②監査の選任について

(新任 小阪)

(２) 第２回評議員会

決議があったとみなされた日 令和２年６月１９日（金）

開催方法 決議の省略の方法（定款第２２条第１項に基づく書面決議）

決議事項 ③令和２年度資金調達及び設備投資の見込みの変更について

(防府市公会堂の舞台照明用調光操作卓不調に伴う新調(リース契約)のため)

(３) 第３回評議員会

開催年月日 令和３年３月４日（水）

開催場所 防府市公会堂３階 ４号室

決議事項 ④令和３年度事業計画書及び収支予算書等について

事業報告の附属明細書

令和２年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第３４条第３項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和３年５月

公益財団法人 防府市文化振興財団